

新宿通信

NO. 53

令和2年2月20日
東京都立新宿高等学校
進路指導部

- 国公立出願状況
- リアルセンターの見方
- キャリアガイダンス報告

3つのCを大切に

英語科 宮田 智子

かつて講演会へ出掛けた折、講師の方が、「これからは3Cの時代です。」という内容の話をしました。講演の詳細は忘れましたが、以来、折に触れ生徒達に3Cの大切さを私なりの解釈を加えて話してきたので、ここではその話を紹介しましょう。

3Cの最初のCはComputerです。計算やら、分析やら作業を迅速に行う上で、コンピューターは大切なtoolですが、それ以上に情報収集に上手く使いたいものです。私達は日々、Internetを通して、膨大な量の情報や最新情報に触れています。その中から正しく役に立つ情報を取捨選択することが今日、私達にとって不可欠な能力です。よく、「NHKが言っているから間違いない。」とか、「A新聞に書いてあるから。」という言葉を目にします。しかし、公共性が高いとはいえ、TVも新聞も人が扱うものです。人が扱っている以上、そこには送り手の意図が働きます。まして、Internetには誰でも情報を発信できるが故に、多様な発信者が提供するその情報については、質を見分ける眼が肝要なのです。物事を見る際には、必ず、関連する書籍や信頼できる専門家の意見を聞くなど、複数の視点から情報に触れて、客観的な根拠に基づき、豊かな知識を身に付けてほしいものです。

第2のCは、Content(s)です。Content(s)とは、人間としての中味です。皆さんは学生として、大いに学習し、この中味を充実させて下さい。そのためには、何事をも的確に見極める目と、考え抜く力が大切になります。既存の考えにとらわれず、新しいものを作り出すには、柔軟性も必要です。例えば、ノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏は、宇宙の神秘を解明する‘神の数式’を求めて壁に突き当たり煩悶する多くの科学者の中で、柔軟な発想で見事にbreakthroughといえる‘数式’を創出し、それが更なる真理の発見へとつながりました。型にはまった発想を凌駕する柔軟性の大切さを教えられます。氏はご自身を顧みて、専門以外の分野も勉強すること、また、一つのことを突き詰め、考え続けることの大切さについて語っています。世界最高峰にある物理学者達をして「未来を知りたいければ、南部に聞け」とまで言わしめた先人の生き方に学んでください。優れた人物の生き様、考えに数多く触れることは皆さんの人としての器を広げてくれることでしよう。

最後のCは、Communicationです。如何に豊かな知識を持ち、優れた考えを秘めていても、それを人に伝え、役立つ術を知らなければ、宝の持ち腐れです。国際化の進む現代にあつて、伝えるべき相手は国内に限らず、世界にいます。と思ってください。また、正しく、優れた意見を述べ、提案をしてもいつも受け入れられるとは限らないということも心得てください。この世は、善意や正義だけでできているわけではありません。時に、悪意を向けられ、攻撃もされましよう。そうした折には、独善に陥ることなく、証拠を挙げて主張し、ひるまず対峙してください。皆さんの主張が正しければ、周りが味方に付いてくれます。ただし、相手の主張や考えの背景を理解し、時に思いやる気持と、相互に理解を深めることの重要性も忘れないで下さい。ディベート力を磨き、語学力を身に付け、真のCommunication能力を育ててください。

3つのCを大切に、ご自分の将来を、日本の明るい未来を拓いていってください。

□ 3年生国公立出願状況

受験年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	67回生	68回生	69回生	70回生	71回生	72回生
5教科7(8)科目受験者	162	182	171	179	190	192
国公立大出願者(前期)	193	214	213	195	216	216
国公立大等合格者	87	101	95	79	89	☆

センター試験の結果を受けて、2次の出願が終わりました。センター試験を5教科7(8)科目で受験した生徒数は、表のとおり192名となっています。この人数が3年生全体の6割以上であることが進学重点校になるための条件の一つですが、昨年に続いてクリアしました。また、国公立大出願者は昨年同様です。(国公立大は基本的には5教科7(8)科目ですが、中にはそれよりも少ない科目でよい大学もあります。) 2次試験は2月25日に始まります。3年生の健闘を祈っています。

□ 2年生は3年0学期のスタート

受験学年としての3年0学期はすでにスタートしています。来年の共通テストまでもう一年ありません。焦る必要はありませんが、「受験はまだ先のことだ。」と先送りする余裕もありません。

○ 目標を定める

目標を定め、その実現化のための計画を立て、それを日々実行することが大切です。予定通りに進まない時は立ち止まって計画を修正することも必要ですが、それでも構いません。目標実現のための「計画」と「実行」を始めてください。「計画」は「自分との約束」とも言えるでしょう。

○ 受験勉強は貴重な経験

受験勉強というと、何か暗くて辛いというイメージがつきまといますが、それは世間が勝手に作り上げた幻想。人は生来的に学ぶことが好きな生き物で

す。皆さんも学ぶことの楽しさはこれまでに何度も味わっているはず。その意味では、大学受験のように勉強に没頭できる機会は、人生における至福の時かもしれません。思いっきり勉強して今後の人生につなげていきましょう。

○ バランスのとれた学力を

ただ、受験勉強という特別な勉強があるわけではありません。受験では高等学校の授業で学ぶすべてのことが試されます。教科や科目という仕切りはありますが、例えば「現代文」や「英語の長文読解」の入試問題にはあらゆる教科・科目の内容が取り上げられています。

また、学力だけでは不十分です。まる2日間に亘る共通テストでは体力と集中力がないと話になりません。体育や部活動で鍛えた体力と精神力がぜひとも必要なわけです。受験生である前に高校生であることを肝に銘じておきましょう。

□ リアルセンターの見方

2年生は全員がリアルセンターを受験しました。結果はそれぞれだったと思いますが、皆さんはまだまだ伸びます。

現3年生が、2年生の時に受けた英語のリアルセンターの新宿高校平均点と今年、3年生として受けたセンター試験本番の新宿高校平均点との差は40点以上あります。また数学は2年生の時にリアルセンターでは全国平均点に全く届いていなかったのに、

3年生として受けたセンター試験本番ではI A、II Bとも、全国平均点を大きく上回っていました。さらに国語は2年の時すでに受験生の全国平均点を上回っていましたが、そこからさらに40点以上積み上げています。先輩たちの伸びを参考にして1年後

の自分をイメージしましょう。皆さんはまだまだ伸びます。

□キャリアガイダンス報告（1年）

2月12（水）6,7限に1年生対象のキャリアガイダンスが実施されました。この行事は朝陽同窓会のご協力を得て、各分野の第一線でご活躍の先輩方から直接お話を伺うというものです。生徒は希望の講義を二つ聞くことができます。今年は16名の諸先輩がそれぞれの仕事の魅力や進路選択の経験などをお話してくださいました。講師をご紹介します。

- ① 津川 清一 氏 (21 回生)
演題「国際会議でのお作法」
- ② 須田 健太郎 氏 (48 回生)
演題「広告の秘密」
- ③ 酒井 邦彦 氏 (24 回生)
元・広島高検検事長
演題「法律家になって社会をよくしませんか」
- ④ 福山 知子 (38 回生)
演題「Your Future Is in Your Hands!」
- ⑤ 太田 正行 氏 (23 回生)
元・新宿高校教員
演題「教師にもとめられるもの」
- ⑥ 竹迫 和美 氏 (25 回生)
演題「多文化共生コミュニケーション」
- ⑦ 佐野 由雄 氏 (24 回生)
名古屋大学大学院経済学研究科教授
演題「グローバルに生きる、グローバルで仕事をする」
- ⑧ 篠原 厚子 氏 (25 回生)
清泉女子大学人文科学研究所教授
演題「薬剤師を目指した理由、研究職に変更したのは面白かったから」

- ⑨ 植田 益朗 氏 (26 回生)
演題「アニメプロデューサー、一度やったらやめられない」
- ⑩ 三矢 恵子 氏 (26 回生)
演題「メディアで何を伝えたいのか」
- ⑪ 潮 智史 (34 回生)
演題「ひとにものを伝えるということ」
- ⑫ 中越 一統 氏 (31 回生)
公認会計士、リソース・グローバル・プロフェッショナル・ジャパン(株)ディレクター
演題「公認会計士の常務について」
- ⑬ 細矢 剛 氏 (34 回生)
国立科学博物館 植物研究部 グループ長
演題「多様性は宝」
- ⑭ 西村 雄一 氏 (43 回生)
FIFA ワールドカップレフェリー
演題「夢と感動を支えるものとして」
- ⑮ 原田 将史 氏 (48 回生)
1級建築士、Niji Architects 共同代表
演題「寝ても覚めても建築」
- ⑯ 馬場 悠男 氏 (15 回生)
演題「博物館の人類学研究者という生き方」

【今後の予定】

- 学年末考査 3/5 木～3/10 火
- 実力テスト(共通テスト対策・学び未来 PASS)
3/11 水、3/12 木
- 卒業式 3/17 火
- 合格速報会 3/24 火
- 修了式 3/25 水

焦らずに努力していれば 必ず花が咲く

大阪芸大准教授 俳優

31 回生 北村岳子

初めまして。北村岳子と申します。タケコではなくタカコと読みます。父が勝手に読みました。

在学中の同級生からの私の印象は前の方の席で文庫本を読んでいるおとなしくて歩くと外股の女子。これは後に友から聞いたことです。

新宿だけに高校から近い新宿コマ劇場の4階にあるバレエスタジオに週3回通っていました。部活は演劇部。シェイクスピアの空騒ぎという作品をやりましたね。ただバレエに没頭して、あまり高校生活を満喫した方ではなかったと思います。友達も数人。その数少ない友達が今でも 舞台を観にきてくれていることを考えると もう少し友達をつくっておくべきだったと反省しています。

両親ともに役者で、母がその頃劇団四季に在籍しており、通ったバレエスタジオも四季の方達が多く通う小川亜矢子スタジオ。厳しくカッコいい先生でした。

小川先生との出会いが、わたしの踊り人生の始まりというわけではなく 実は3歳の頃から3年間リズムバレエというのをやっています、これは団地の集会所で先生がタンバリンを持って教えてらっしゃるのをわたしが食い入るように見ていたので母がやらせてみたようです。

初レッスンでお漏らし。はっきり覚えております。3歳なりに緊張したんでしょうね。

しかし三つ子の魂還暦まででしょうか。今もダンスに関わる仕事をしています。この年まで踊り歌いお芝居を続けてこられたこと、とにかく感謝です。

この職業はほぼ出会いと運だと謙遜される方が居らっしゃいますが、わたしはやはりその人の才能と努力の賜物だと思います。そしていかに

白けないでずっと好きでいられるかですね。とにかく自分の武器を磨くこと。

その土台があつてこそその出会いと運ではないでしょうか。努力しているからまた才能ある人と出会えるしチャンスを与えてもらえるものです。

昨年10月に70代80代の俳優さんとお仕事をしました。皆さん舞台や映像で活躍されている方達です。それぞれが歌われるソロ曲は素晴らしく、舞台上に居る私は毎回密かに感動。鳥肌立つ瞬間もありました。それでも皆さん毎回今日はここがダメだった、いろんな日があるから面白いねとおっしゃるんですよ。日々努力。

本当に舞台は毎日違います。それは客席の空気、相手役による自分の変化によって良くなり悪くもなる。ただ共通していることは、舞台が、そして芸事が好きなんですね。まあ、役者バカです。

努力の仕方も頭良く。眉間にシワを寄せてがむしゃらはまず身体を壊しますよ。言えることは『よい加減でそして 出たところで潔く勝負する。』つまり、出たとこ勝負とは素晴らしい言葉なんですよ。

実はこれ、かなり難しい技なんです。でもだからこそ面白いでしょ。まずは好きなこと、本気になれることをたくさん見つけてください。そこがとっかかりとなり、きっと尊敬できる人に出会えるはず。焦らずに努力していれば今すぐではなくても時分時分の花が必ず皆さんに咲くはずですよ。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)